



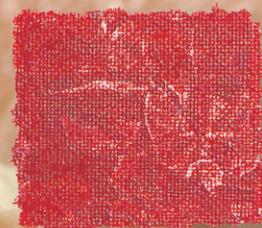
道

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.21 夏号



**東日本大震災ボランティア特集**

パネルディスカッション

「これまでの道守、これからの道守」

巻頭随想

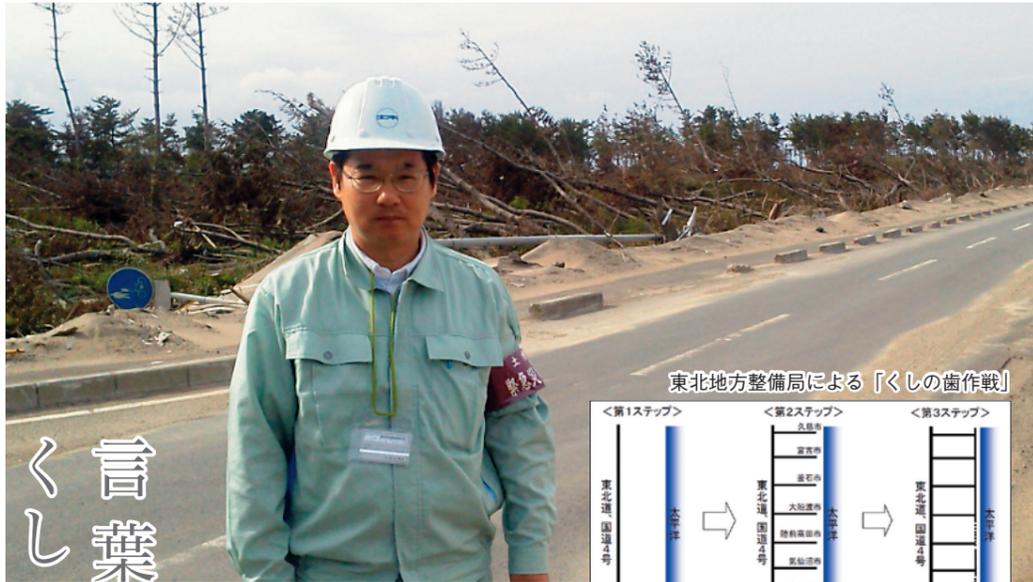
言葉失う被害の大きさ

くしの歯作戦でルート回復

塚原健一

九州風景街道・年間優秀活動賞

「特徴生かし成果」—4ルートが初受賞



# 言葉失う被害の大きさ くしの歯作戦でルート回復



九州大学大学院環境都市部門 教授  
昭和37年生まれ、大学まで九州各地で育ち昭和60  
年旧建設省入省、インドネシア、フィリピン等発  
展途上国で勤務し、国際協力機構在勤中はハイチ  
地震震災復興等多くの災害復興事業に従事、平成  
23年4月より九州大学教授。同年7月より道守九  
州会議副代表世話人。

7月に東日本大震災の復旧状況の調査に参加し、被災地を訪ね、被災後から今日までの状況について関係の方々のお話を伺いました。自然の力の大きさと、それによる被害の甚大さに言葉が失うとともに、実感したのは避難、救援、復旧、復興、すべてのプロセスにおける道路の役割の大きさと、単に建設するだけでなく利用や管理といった日々の生活の中で道路との関わり的重要性です。

仙台平野では津波が襲来する際に、低平な平野の中で数少ない高台の仙台東部道路に避難し難を逃れた人がいたとのこと。地域の方々は日々の道路の使用の中で、この道路が十分な高さを持っていることをご存じだったのでしよう。

被災後の救援段階では、国土交通省東北地方整備局による救援ルート確保のための「啓開」が話題になりました。「啓開」とは聞き慣れない言葉ですが、「きりひらくこと」、「水路の障害物を除いて船が航行できるようにすること」という意味で、災害により閉塞状態にある道路を通行できる状態にする作業です。地震発生翌日の3月12日には縦方向の幹線、東北道、国道4号から被災地へつながる16の東西ルートのうち11ルートが啓開し被災地への救援活動に大いに役に立ったとのこと。

これは「くしの歯作戦」と呼ばれる新聞などでも大きく取り上げられたのでご存じの方も多いと思います。そしてこの「くしの歯作戦」が迅速に行えた理由として、災害協定に基づく地元建設業等の協力が得られたことが大きいとのこと。日頃から地域の道路の状況に精通し、建設や維持管理を行っている建設業等の皆さんだからこそ、短時間の間に多くのルートの啓開が可能になったのだと思います。

大きな被害を受けた沿岸部を走る国道45号に並行する地域高規格道路、三陸自動車道は被災を免れ、救援、復旧において大きな役割を果た

九州地方も災害とは無縁ではありません。九州地方は地震、津波災害だけでなく、洪水や大規模な土砂災害にも対応しなければなりません。東日本大震災で我々が学ばなければならぬことは、ハード対策としての堤防や護岸などの構造物だけで自然災害を完全に押さえ込むというのは不可能で、避難、救援、復旧といった地域の皆さんの活動により被害を軽減することの大切さだと思います。災害時に最も効果的な活動を行えるのは環境美化などの地域活動をされているNPO、NGOの皆さんだと言われています。それは日常の活動という土台があつてこそ、緊急時にも適切な活動が行うことが出来るからです。その意味では道守の活動は、地域の安全のために重要な道路を適切に利用し管理する社会全体のシステムのなかで大きな意義を持っているものと言えるでしょう。

KENICHI TSUKAHARA

# 塚原健一

巻頭  
随想

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組みむ人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るといふ新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一步踏み出そう。



「尼御前にて」五島市三井楽町

## CONTENTS

- 01 巻頭随想  
言葉失う被害の大きさ  
くしの歯作戦でルート回復  
塚原健一（九州大学工学部教授）
- 02 東日本大震災ボランティア特集  
地震、津波、原発。未曾有の災害に現地で向き合っ  
て災害の多い九州自身の問題として  
心と仲間とネットワーク、そして制度の整備を
- 03 「道守花壇」づくりの新しい展開  
長崎、熊本、宮崎、大分の先駆的な試み  
社会実験で、活動資金作り。なお、難問も
- 04 第7回みちづくしin九州  
パネルディスカッション  
「これまでの道守、これからの道守」
- 05 わたしの好きな道  
潮風うけて、開聞岳と桜島を一望に  
肥田真八郎
- 06 みちづくしin九州 各県報告  
故郷を愛する気持ちは皆同じ
- 07 九州風景街道・年間優秀活動賞  
「特徴生かし成果」—4ルートが初受賞
- 08 道守の輪
- 09 みちづくし in 佐賀2011  
佐賀にいらっしやいませ
- 10 海外道事情  
トルコ 街の道は交流の場
- 11 私たちの道守活動
- 12 道守人物伝
- 13 道守たちのトピックス

表紙画：久富 正美  
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

# 地震、津波、原発。未曾有の災害に現地で向き合つて 災害の多い九州自身の問題として 心と仲間とネットワーク、そして制度の整備を

## I 学生ボランティア

(九州大学など)

私たちは5月23〜28日に宮城県気仙沼市で、災害救援ボランティアとして働きました。3月11日、大震災が起こってからというもの、何か自分にできることはないか…と考えていたものの、現地に行く勇気はなく、福岡にいても何かできることはあると自分に言い聞かせながら実際何も行動していませんでした。しかし友人の「ボランティアの数が足りない。日本大変なときに若くて時間も力もある学生が行かなくてはどうか」という言葉が、「直接被災者の役に立ちたい、現地に行かなくてはならない」という思いへと変えるきっかけとなりました。実際に行った被災地



なにつらいか…。被災地の方たちの絶望感を肌で感じたからこそ、その言葉がすごく重いものでした。しかし同時に早く復興させてあげたいと強く思いました。

## 欠かせない「仲間の存在」 大学に単位認定制度を

学生ボランティアとしての経験のうち欠かせないのは、仲間の存在です。合計23人、私は5人で炊き出しとして参加しましたが、他の18人はがれきの

撤去をしていました。その仲間のうち、あれからもう何度も、何週間も、被災地に行っている人が何人もいます。みんな日本の将来を担っていく若者として、今日のために何ができるかを考えた結果、現地ボランティアをしに来た人たちです。活動について毎日反省し、改善し、被災地への思いを共有していました。そんな仲間に会えたことも財産です。より多くの学生がボランティアに行きやすくなるよう、大学に単位認定制度の改善を提案したり、授業で活動報告をしたりしています。今回行った気仙

沼市や陸前高田市はとも自然が豊かなところですが、被災したところから少し視線をずらすと、藤の花が咲き乱れていました。人もとてもあたたかい、素敵なお店です。その人たちの笑顔のためにも、これから日本を支えていくためにも、いま私たち学生が動くことが必要なのではないか。被災地から遠い九州の地でそう考える毎日です。

## II NPO法人 レスキューサポート九州

3・11東日本大震災。その被害規模は、阪神淡路震災とは違い、被害の範囲は広域的で、地震の被害より大津波の破壊力で町や集落は壊滅的な状態になっている。

マスクミの情報だと、新幹線などは全面運休、飛行機も欠航、高速道路は速度制限で何とか通れることがわかったが、ガソリンスタンドでの給油が緊急車優先で一般車両は10時間並んで20リッター給油できればいいほうだという。

岩手県や宮城県、特に仙台市内の宿泊場所はすべて閉鎖している状態であった。

3月29日東京駅から臨時夜行バスで仙台に向けて移動した、もちろん非常食と寝袋持参で特に携帯電話の充電用にソーラーパネルの発電機を持参した。



8時間過ぎて仙台駅前に到着、東北一番の繁華街に人影がないのが、逆に被害の大きさを感

今回の活動は、現地での防災ボランティアの窓口と何が必要かという支援体制を確立することが目的であった。



仙台市は津波の被害こそなかったが、地震による被害と都市ガスや電気、水道、燃料などライフラインの不通用

## 九州完結型のボランティア ネットワーク構築のススメ

態で生活機能はマヒしていた。

そこで、宮城県庁裏にある宮城県社会福祉協議会の運営するボランティアセンターで広報体制を支援している防災科研のメンバーと合流し、9時からのボランティアセンターの業務開始前のミーティングと18時からの業務報告のミーティングに参加し、市町村の被害状況と避難場所の食料や飲料水などの要望が随時報告される。

こうした避難所などの要望に沿って明日のボランティアの配置や要望のある資材などを集めたりの作業が始ま



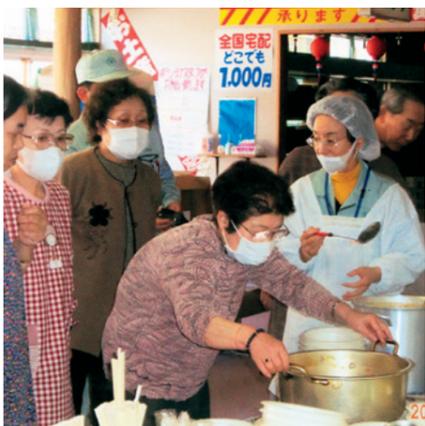
また、小規模避難所で食事が行届なかった大槌町の伝承館避難所では、約60人分の炊き出しを行った。

第3次隊、関係づくりをしていきたい。

る、このミーティングに参加している人たちは、ほとんどが他所の地域からの参加で各自、非常食を食べながら寒さに耐えて寝袋に入り活動している。時間の経過と共に避難所に物資が届き始めるとボランティアセンターには復興に向けた泥出しや家財の搬出貴重品探しなどの要望が増えてくる。自衛隊の食料炊き出しが行き渡るようになると亡くなった方や行方不明の方たちの安否確認や建物の現況を写真資料として残すこともボランティアの重要な役割になってくる。

第2次隊は4月30日は仲間5名と羽田空港からワゴン車で陸路、宮城県一関市を目指して600キロ移動する。

毎日徹夜に近い感じで勤務し被災者でもある行政職員が食料が行き渡らない事を聞き陸前高田市役所の業務の区切りがつく20時ころ温かいスパゲティ70食分を炊き出し支援を行った。



5月30日、羽田から東北新幹線で一関に行き、被害の大きい岩手県沿岸市町の支援のために遠野市が拠点をして施設を開放しているため自衛隊や警察、消防などはもちろん防災ボランティアにも地区の公民館を開放して宿泊などにつかれる体制をとっている。

今回の活動は、避難所でのカウンセリングの要望があるが、なかなか受けられる人が少ないということもあって、避難所ではなく災害現場でカウンセリングが出来ればとメンバーの竹田さんが同行した。

カウンセリングと避難所での心のやすらぎのための適度な酒類を住田町、陸前高田市、気仙沼市、大船渡市、釜石市、大槌町役所を通じて避難所や団体にご提供した。

今後は地元雇用や経済などの活動が上手に行くような支援活動を被災地の方々とコミュニケーションをとり永く



写真はレスキューサポート・現地報告

# 第7回 みちづくし in九州

パネルディスカッション

## 「これまで道の守、これから道の守」

みちづくし in九州2010から

「道守九州会議」は2010年、発足から7年目を迎えた。これを記念して福岡市で開かれた「みちづくし九州」では、7年間の足跡を振り返り、道守の目指すものを論議する「これまでの道守、これから道の守」をテーマにパネルディスカッションが行われた。司会は安立清史九州大学教授。パネリストはこの7年間でさまざまな問題に取り組んできた、阿野史子さん（道守長崎会議）、日高晃さん（道守みやざき会議）木ノ下結理さん（道守大分会議）野口宏一道路部長。

### ■パネリスト（順不同）

道守長崎会議 阿野史子さん  
道守みやざき会議 日高晃さん  
道守大分会議 木ノ下結理さん  
九州地方整備局 野口宏一道路部長  
■コーディネーター  
道守ふくおか会議  
安立清史九州大学教授

### 問題提起

討論に先立ち、安立教授から「これからの道守活動についての問題提起」が行われた。

**安立** 新しい社会の仕組みとしてNPOというのは、第一部門の政府、第二部門の企業や市場に対し、第三の流

各県の道守会議代表者が集まったの座談会。

会では「新たな公」といった言葉にあるように自分たちがやっていける事があるのではないかという話が出てきた。身近なところから、できる範囲でやっていき、緩やかなネットワークで結ぶ。そういった点では他が何をやっているか情報交換できるこのみちづくしは意味がある。

### 花の苗にスポンサーを

**阿野** 道守さんは、やることに誇りをもって楽しんでやっている。しかし苗まで買ってはという声もあった。会の中でリーダーをやる人がいなくなったらどうなるのかという不安もあった。ちゃんとシステム作りをして資金が行くような形にできないものか、長崎会議で話し合っってNPO法人の道守長崎をつくった。個人からでなく企業からも会員を集め、活動の母体とした。さらにきちんとシステム化するために国交省の社会実験に参加した。スポンサー企業に花の苗などを買って頂き、花壇にはそのスポンサー名のプレートつけるといふものだ。道守さん側には、花などが供給されるようになり、スポンサー企業としては企業イメージアップに役立てられる。さらに小学生が種を育てて地域の方

れ、市民の部門としてできた。

日本の社会はこれまでのタテ社会、上下社会の非常に強い社会だった。第二は、横の繋がりでヨコ社会というのが、企業社会・市場社会である。第三の市民部門は平等で友達であり、仲間くなり調和がある。反面、誰かがやらないと始まらない。

タテ社会とヨコ社会だけだと社会が脆くなる。そこで、第3の軸を考えると、建築などの構造物のように梁でなく筋交い、斜めの板を入れると構造は格段に強くなる。

昔の地域社会で言うと、銭湯や地域社会の中に必ずおじさんやおばさんがいて、血の繋がりはなくとも子供たちが非常に良い教えを率先して示してく

が国道沿いに苗を植えるということも5年間も続けている小学校があり、これらのをなんとか成功させて道守活動の始まりのシステムづくりの一步になったら嬉しい。

**日高** 企業というのは人格をもっていて、地域から育てられている。そうであれば、地域に何か出来ることはないかと、それはお金の提供であったり、技術的・人的提供であったり、精神的な支援とかいろんな応援の仕方があると思う。昨年のみちづくしでは、そういった地域の力を吸収して80万円の開催資金を集めた。今年は口蹄疫の関係で特別に許可を頂き、橋通りに1000個ある花壇に1つ3万円の広告料を頂いた。ちゃんと管理団体としてしっかりと管理しながら、ただ植えるだけでなく通りの景観を考えながら植える。ここがポイントである。

**木ノ下** 私は、小学生の頃、父についていったボランティア活動体験があったので道守活動に違和感なく参加できた。

しかし今、道守に若手が少ないという。そこで、私なりに考えたことが3つある。一つは、社会的背景かどうかはわからないが、今は、興味のあることしか情報を得ない。見たいもの、聞きたいものしか見えないし、聞かない。

れていた。斜めのおじさんやおばさんが地域社会において、美化や清掃で地域を守ってこういう活動は、上下関係では生きていけず、横の関係でもやらない。

そこで第3のセクターであるNPOや道守さんが今では失われてしまった斜めの関係を再生されているのではないかと。さらに新しい形で再生させ、地域に根付かせ、プラスチックの夢を生み出しているのではないかと考えた。

### 討論

**阿野** 長崎会議は、5つのブロックに分け活動している。平成18年の長崎さるく博では、「通り名による道案内」

そういった意味では、若手まで情報が届いていないのではと思う。二つ目は、単純に面白いと思うイベントだったり集まりだったりがあったらまた道守だった。そういったことをやり続けていくことが大切だと思う。最後の3つ目は、カリスマ性のある人材を育ててもらうこと。この人みたいになれたらいいな、あの人がいるから入ろうかなという風に巻き込むのも一つの手段だと思う。

インターネットを使った仕事をしているのだが、携帯電話やスマートフォンを使って、道守さんの情報発信、交換ができたら良いと思う。また、カーナビがわりに使ってもらって、道路情報などを提供する。その広告料で資金を集めるといふのもあるのではないかと。

**安立** 勇気のある話だった。新しいコミュニケーションツールや新しいナメの關係の重要さを言われた。会場からも意見を聞いてみたい。

### スポーツ感覚で

**中城**（くまもと会議）私達の世代とというのは24時間コンビニが開いている両親も私達も仕事や受験勉強で忙しい日を送ってきた。しかし、道守活動を続けていくうちにやるのは億劫だけど、やりだすと生き生きしてきて爽快感がでるスポーツと同じような感覚に

実験をおこない好評を得た。国道34号の地下道調査を地元商店街と行ったのがきっかけでクリスマスイベントを毎年行うようになった。しかし、継続的にやるには、資金面で難しくなった。

**日高** みやざき会議では、10月の第4週の日曜日を「道守の日」として道守さんが一つになる活動を県下一斉に行っている。また、道の新しい使い方として、国道を1kmにわたって通行止めにし、国際ストリート音楽祭を開催し、5万人の参加者を集めている。地域に密着して活動するには、ブロック化しながらネットワークを広げていくことが大事で、国、県、市の連携・協働という仕組みをどう作っていくかが問題である。

**木ノ下** 大分会議では、通りに自分のネームプレートをつけてマイツリーを植えようという活動をずっと続けている。毎年一回顔をあわせて清掃活動も同時に行っている。しかし、問題もある。来るメンバーが同じになり、知り合いになれるが、一度植えたきり来ない人もいる。若手も参加しづらくなってきている。

**野口** 今までの発表の中で出てきた課題は、活動資金の確保と高齢化。

こうした課題を浮き彫りにした中で今後どうしていくかという方向性を話し合ったのがみちづくし前に行った。いいと思う。

**亀野**（大分会議）ある講演会でこれからのまちづくりのキーワードはシビックプライドであると聞いた。これは、市民として誇りのある街を作ろうとか市民として愛着のもてる街をつくらうというものらしい。私はこれを聞いて道守九州会議そのものだと思っただ。もうとっくにやっていると思った。

**大山**（ふくおか会議）北九州の道路サポーター制度について紹介したい。北九州は、街全体を清潔にそして花であふれさせようと言う運動を行っている。平成17年より、市より花苗や道路の掃除道具の援助を受けて活動を行っている。私たちはそのお礼として自分たちで育てた花の種を市に返し、市がまた還元するというようなことも行っている。

**安立** 今日一日、たくさんの方のアイデアや提案、新しい言葉をいただいた。こういう言葉を体の中に染み込ませ、道守活動が地域を豊かな新しい関係・第三のナメの關係を作れるようになってほしいと思う。（敬称略）

九州各県の道守さんからは活動のこれまでを振り返っての発表があった。

「街を汚すことはカッコ悪い」を合言葉に7年間、天神地区の清掃活動をおこなっているグリーンバード福岡チーム代表（ふくおか会議）の木下真裕さんは7年間で築き上げた強みは、「継続力」「行動力」「実績」の3つだと語る。

若者の無謀をボランティア活動のエネルギーに変えさせ活動の原動力にしてきた。若者を引きつける理由は、ファッション感覚で楽しい、カッコイイというスタイルを促し、文化祭仕立てで取り組んでいるから。きちんと議論して、意義あることだと理解してもらうことも欠かさないなど次世代へつなげようという秘訣を披露した。

佐賀会議は、毎年春に開催される佐賀城下ひなまつりを前に行う「ひなまつり清掃」がきっかけで道守活動が始まったと話すロードネット佐賀代表の渋谷里美さん。7年続いた秘訣は官と民の協力があつたからこそ。歩いていて楽しいといわれるようになった道を今度は道守の知名度を上げたいと語った。

県内31ヶ所に「道守花壇」を持つくまもと会議。発表者のNPO法人ネットワーク八代の岡田敏代さんは、自身が駅長を務める第三セクターオレンジ鉄道の八代駅を運営しながら道守花壇を育てている。行政からの花苗の提供等が少なくなっているが工夫しながら頑張っている行きたいと発表した。

「継続は力なり」の実感を語ったのは環境美化を考える会（長崎道守会議）の代表田口昭子さん。当初、11名の会

員でボランティア活動を始めたが100回を数える年間活動を10年以上続けることで会員数を114名に増やし、最近ではよそから引越してくる人たちの仲間づくりの場にもなったという。苗から育て植えた街道の桜もようやく花を咲かせ、皆に力を与えている。

夕日の里づくり推進会議（みやざき会議）が17年間取組み続けたのは住民の意識開発。会長の後藤福光さんは当時、離合できない未舗装の道路で街は閉塞感のみが漂っていたと語った。夕日をシンボルに夕日フェスタや農家民泊で夕日の里づくりをおこなうことで住民に自立と参画意識を芽生えさせた。25キロの県道の除草も「夕日の里クリーン作戦」と名付けてボランティアで行った。作戦は功を奏して全線2車線化と行政も動かした。

さのなか、総勢114名が汗だくになつてゴミ拾いや除草を行いました。「けやき通り落葉時の歩道清掃」12月5日の福岡国際マラソンに先だって、国道202号けやき通りの歩道清掃を行いました。また、「道路を守る仕事」、「けやきを守る仕事」の体験学習、腐食したけやきの植え替えも行いました。

「佐賀会議」

「花植え体験事業」

平成22年10月30日、佐賀県唐津市厳木町の「ふれあい花畑」において花植え体験を実施しました。



## 道守の輪

「佐賀城下ひなまつり清掃体験事業」

平成23年2月19日、毎年この時期に開催されている「佐賀城下ひなまつり」の会場周辺で清掃活動体験を実施しました。

「長崎会議」

「大村マイツリー活動」

道守長崎会議では、国道34号大村拡幅事業に併せて整備された街路樹をいつまでも大切に守り育てようと「マイツリー活動」を実施しており、平成23年3月12日に大村市マイツリー会員による清掃活動が行われました。

「熊本会議」

「日向街道熊本（宮崎）歴史ウォーク」歴史街道について子供達にわかりやすく学び親んでもらうとともに、道守活動のPRを行うことを目的に歴史街道を、道守会員の歴史街道愛好家の案内により歩きながら、道の歴史を学びました。

「道路ふれあい月間」道の日熊本県下一斉早朝清掃」

道の日に県下で一斉清掃を実施し、道路への愛護を呼びかけると共に、道守活動のPRを行うことを目的に熊本県内各拠点において、一斉早朝清掃を実施しました。

「大分会議」

「道守大分会議ブログ開設！」

大分の道守さんをもっと知ってもら

「福岡会議」

「ごみゼロ青春探検隊いとしま」

毎年8月の「道路ふれあい月間」に併せて、国道202号沿線（福岡市西区周船寺（糸島市二丈上深江）3箇所（総延長約5.0km）に分けて、美化活動を実施しました。当日は厳しい暑

うために、事務局がブログを開設しました。内容は、道守会員の活動報告、事務所からのお知らせや、イベントのお知らせなどです。

「第7回別大道路一斉清掃」

マイツリー会員、道守会員全員を対象に、年に一度、道守大分会議が集まる「別大道路一斉清掃」を開催しました。

「宮崎会議」

「まちんなかフラワーパーク橋通り春の植栽ボランティア活動！」

宮崎フラワールードネットワークが主催で、「みやざき国際ストリート音楽祭」を前に、宮崎市の橋通を花いっぱいに歓迎しようと春の植栽ボランティアが平成23年4月23日に行われました。約300名の道守さんが約900メートルの橋通りを花いっぱい埋め尽くしました。「国道220号いるか岬でコバノセンナの植樹をしました！」

平成23年7月31日、「コバノセンナを育てる会」は、宮崎市内いるか岬周辺の国道220号沿いにコバノセンナの苗を約500mの間、植栽したり除草したりしました。コバノセンナは、毎年10月から12月に黄色い花が咲き、日南海岸が黄金色に染まります。

「鹿児島会議」

「道守かごしま会議」 総会・交流会を開催！！

7月21日、「道守かごしま会議」では、平成23年度の総会を61名の参加で開催しました。各会員からの報告では、会員数は多くても草取りにみんなが出て来てくれない、と問題点を上げた所に對しては、地域の町内会を巻き込んで行政とタイアップして無理なくやれているといった成功事例の紹介があったり、地道でもずっと続けていければ、地域の為にもなるし、道路も綺麗になる等の報告がありました。

### 道守九州会議

#### 第二回運営会議を開催

平成23年7月7日、福岡市において本年度第1回の運営会議が開催されました。

会議にはこの4月から九州地方整備局道路部長に就任されている山内道路部長をはじめ九州地方整備局及び各県の国道事務所の多くの道守支援室の皆様にもご参加をいただき活発な情報交換や意見交換を行いました。

副代表世話人に

九州大学塚原教授、

事務局長に尾木幾子氏が就任

役員改定では新たな副代表世話人に

杵築並木の樹木は年に一回、一人一万円を108人から集めたお金で植えられている。そう話したのは、きつき並木街道百人衆（大分会議）の元会長真砂矩男さん。10年間という区切りをつけて行っていた百人衆は、昨年で解散し、残った資金は、行政に寄付をした。この10年で学んだことは「行政に頼りながらもやれることは自分たちでやることだ」と語った。

かごしま会議の荷馬車組合は会員数こそ少ないけれどもボランティア活動をやるときはみんなに呼びかけ大勢が参加してくれると話す。発表も福岡に駆けつけられるメンバー4人（前田健治さん、久保真一さん、他2名）でおこなった。

毎年末、道路の緑地帯に飾られるわらで作った干支の巨大飾りは、歩いている人だけでなく車で通る人の目をも楽しませてくれる。街が生き生きすることなら何でもやると熱く語った。

「事」の体験学習、腐食したけやきの植え替えも行いました。

「佐賀会議」

平成22年10月30日、佐賀県唐津市厳木町の「ふれあい花畑」において花植え体験を実施しました。

塚原健一九州大学教授、そして現在、風景街道ネットワークとの兼務をいただいている事務局長の榎谷様の後任として尾木幾子様（はかた夢松原の会）に就任いただきました。また榎谷様には引き続き事務局のサポート役としてご活躍をいただきます。

多彩な活動報告、

協働システムの課題等を意見交換

各県会議からの報告では、多彩な活動や取組が紹介され、若手の参加を促すためのネットブログの開設、各県世話人や関係行政と個々道守会員の円滑な意思疎通にむけた県内でのブロック組織化の推進、道守花壇等の円滑な運営にむけ企業支援を誘導する新たな仕組みへの社会実験取組、苗の円滑な供給にむけた苗生産講習や生産供給システムづくり、自治体とタイアップし広い市民層での道守活動へ大きく成長させている事例など、各地での多くの取組やチャレンジ事例に参加者の関心が集まっていました。また併せて様々な官民協働の道守活動への課題や問題意識も提案され有意義な意見交換ができました。また本年11月2（3）日の佐賀での「みちづくし in 佐賀2011」の開催骨子を確認し、機関誌「道守通信夏号」の発刊と企画方針などの検討確認を行いました。

# 私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

大分  
地域からの報告  
アートロードの会

## 彫刻の道、心をつなぐ道

東洋のロダンと称された彫刻家朝倉文夫先生の生誕の地 朝地町です。2年に1回開催されます彫刻家の登龍門として、大分アジア彫刻展がここ朝地町からアジア各国にむけて発信されています。こ



「道の駅あさじ」内



国道57号沿い

の入賞作品の数々が、国道57号沿いにある「道の駅あさじ」を中心として点在しています。私達アートロードの会もこのことにちなんで名づけて活動しているグループです。これら作品の周



「JR朝地駅」内

辺の整備清掃や花壇の花植えを行い、外部から来られる方々を気持ちよく迎え入れる為に、各グループがそれぞれ出来る事を出来る時に活動しています。

「道の駅あさじ」沿いを流れる川の向かい岸に植栽をしたり、下刈り作業をして、夏の夜は、ここに蛍の飛び交う様を話し合いながら故郷談義に一献傾けています。秋には、豊後大野市全域で「町中彫刻フェスティバル」が行われ、道沿いには、各グループで造る色々な作品を観る事が出来ます。これからも道をつなぎ、心をつなぐ活動を行っていきたくと考えています。(村上公子)

### 道守大分会議

別府湾を望む美しい景観の歩道をいつもきれいに

大分マリンパレス水族館「うみたまご」は、国道10号別大国道沿いの、高崎山のふもとにあり、美しい別府湾に面しています。

「うみたまご」の社員のみなさんは、5〜6名で、毎月月初旬高崎山駐車場沿線の歩道や植え込みの清掃活動を定期的に行っています。

平成16年4月、水族館「うみたまご」が新装オープンし県内外からの観光客も多く、水族館「うみたまご」と高崎山は、大分県を代表する観光のメッカとなりました。

大分市の西大分地区「うみたまご」の間は、国道10号の6車線化が完成し、別府湾から高崎山、別府の湯けむり、遠くは国東半島など素晴らしい景観が望めます。

また、別大毎日マラソンのスタートが「うみたまご」からスタートとなり、別府へ向かい亀川で折り返して大分陸上競技場ゴールのコースに変更されるなど他県からも注目される道となりました。

もうすぐ、別府〜大分間の6車線化が完成すれば、大分市民だけでなく、別府市からも家族で散歩する人やジョギングする人、自転車で走行する人の姿が多くなるかと思えます。

「大分市民・別府市民の交流の歩道になることを願い、これからのきれいな歩道の美化活動を続けていきたい。」と、水族館「うみたまご」の津野さん(インタビュ当時・取締役総務部長)は語っていました。(木ノ下結理)

## 福岡



### 福博・都市SBW研究会

#### 都心の宝庫を生かす交流の道

福岡市はアジアに開かれた九州の中核都市として発展を続け、県内、九州内、国内はもとより、韓国、中国をはじめとするアジア諸国等からも多くの訪問者が訪れています。

中でも天神、博多駅を中心とする福博地域は、福岡市の都心域を構成する中枢地域であり、西日本地域をはじめ韓国・中国など東アジアからの訪問エリアとなっています。

一方、これら都心エリアは資源や魅力の宝庫でありながら、ゆつくり楽しみ回遊できる交流環境としての面からは種々の課題も有しています。

本研究会は、このような福博エリアにスポットをあて、地域の多様な主体の協働のもと、各種の資源や都市機能を活かし、来訪者とのより豊かな交流環境を創造し、中枢都市「福岡」の魅力と地位向上に貢献するため、「都市型シニックスバイウェイ」のあり方、可能性、方策等



について研究を行い、福岡、糸島、唐津三市長シンポ(写真)を開くなど都市型風景街道を市民に広げ、これから、さまざまな提言を行っていく予定です。(福博・都市シニックスバイウェイ研究会事務局長 吉田)

## 佐賀



### 勧興花づくり同好会

#### 花を育て、愛する心伝える

勧興花づくり同好会は、男性・女性のみならずを中心に活動をしています。勧興公民館の花壇や県庁北側のくすかせ広場をはじめに随時多布施川沿い、国道264号線沿いの数カ所に、大型のフラワーポットを設置し、佐賀土木事務所等と管理協定を結ぶなどして、花の植栽・維持管理を行っています。

現在は会員36名(4班体制)で、春と秋に花の植え替えを行い、水やり・草取り等の維持管理を行っています。

「花のあるまち・ごみのないまち」を目指し、地域住民のコミュニティの場として、花を育て楽しんで



ながら、道行く人々の心を豊かに、花を愛する心を伝えるため今後も活動を続けていきたいと思えます。(野中邦春)

## 長崎



### ブルーステージ大塔

#### 園児の笑顔が活動の原動力

私たち「ブルーステージ大塔」は、佐世保市大塔町(大塔IC入口交差点付近)で約20mの植栽帯に春と秋の年2回の花植えと、水やりや除草・植栽帯周辺の清掃を行っている団体です。

平成17年、「地元の方とのふれあいと地域活性に繋がれば」との思いで活動を始めました。少しでも長く花壇の花を楽しんで頂こうと、昼間の空き時間や仕事終わりに社員一丸となり活動を行っています。



また平成22年度には、佐世保市「美化プロジェクト」という、園児が種から育てた苗を一緒に植栽帯へ植える取り組みを行いました。園児が大切に育てた小さな苗を枯らすまいと水やりにはとても気を遣いましたが、一緒に花植えを行った際の園児の笑顔がとても印象的でやりがいを感じました。これからも、道行く人々に心穏んで頂けるよう花植え活動を続けて行こうと思えます。(松尾真一)

## 大分



# 「道守花壇」づくりの新しい展開 長崎、熊本、宮崎、大分の先駆的な試み 社会実験で、活動資金作り。なお、難問も

九州の道守活動の中で、道を美しくする花壇作りは活動の大きな柱だ。色とりどりの花が、道行く人々の心を和ませる。しかし、その裏には花壇作りにいそしむ人々の努力と苦勞の積み重ねがある。そして悩みは深い。花苗代の確保、スポンサー探し、高齢化など。そこで、先駆的な試みを行っている長崎、熊本、宮崎、大分道守会議の実践例を取り上げたい。

## NPO法人ネット八代

### 熊本



#### 新幹線駅、「道守花壇」でお迎え

平成23年3月12日、九州新幹線が全線開通するのに向けて、道守くまもと会議では、「はないっぱいでおもてなし」活動を展開しました。これは、国道沿いに展開するみちもり花壇で熊本県民の「おもてなしの心」を表そうというものです。また、熊本県で新幹線駅がある地域では、新幹線駅に「みちもりの花壇」を設置。新幹線にのって熊本を訪れる人々を可憐で美しい草花でお迎えします。



また、みちもり花壇を中心に、周辺も清掃美化を行い、町を美しくする運動も展開しています。新幹線全線開通で交流人口が増えると期待して、県民上げておむかえ、おもてなしプロジェクトが進行中です。  
写真は、NPO法人ネット八代が九州新幹線「新八代駅」に設置した、おもてなし花壇です。  
(岡田敏代)

## 道守みやざき会議

### 宮崎



#### 壁を超え、自ら財源づくり

道守みやざき会議は2010年10月より、国道上に設置されている花壇に企業の広告を入れたプレートを設置し、その広告料で花壇の管理運営の経費に充当するという試みに取り組み始めました。  
これは宮崎市職員有志による自主研究グループ「宮崎まちづくり自主研究会」と「みやざきフラワーロードネットワーク」との連携による社会実験で、花の苗や植栽の道具等の費用を、補助金等に頼らずに自らが財源を作っていくこととする新たな仕組み作りの一環です。景観条例や屋外広告物条例等の様々な決まりのある中、どうやったらこのような取り組みが出来るかを議論し、半年間の社会実験ということでこの度始まりました。実際に運用するにはまだまだ乗り越えていかなければならない壁が多々ありますが、平成23年度からの本格的な稼働を目指して、関係各機関をメンバーとした連絡会が宮崎市役所内に設置され、議論を深めています。  
(道守みやざき会議 事務局 石田達也)



壁を超えていかなければならない壁が多々ありますが、平成23年度からの本格的な稼働を目指して、関係各機関をメンバーとした連絡会が宮崎市役所内に設置され、議論を深めています。  
(道守みやざき会議 事務局 石田達也)

## 長島町商工会女性部

### 鹿児島



#### ぐるっと長島フラワーロード

長島町は、鹿児島県でも最北端に位置し隣接する阿久根市とは、黒之瀬戸大橋で結ばれています。温暖な気候に恵まれた自然豊かな島です。私たち長島町商工会女性部では国道389号線沿いに彼岸花を植え、花の管理に努めてきました。長島を訪れる方たちを気持ちよく迎えられるようにと。

また年に一回部員全員で町内の美化活動として、県道沿いや港近くまでおどりてゴミ拾いのボランティア活動を十年以上続けています。現在は景観条例が施行されたのを機に町をあげて、花作りに取り組み、「石積みと花の町長島」を全国にPRしています。今年は「花かごしま」の協賛会場として、「夢追い長島花フェスタ」が5月、開催され、スタンプリリーなどさまざまなイベントがありました。是非花の町長島へお越し下さい。  
(長島町商工会女性部 福山)



## 道守くまもと会議

### 熊本の「おもてなし花壇」

新幹線開通プロジェクトに採用  
平成16年から続く道守花壇は、熊本県内の国道3号、57号沿いに35ヶ所展開し、道行く人々の目を可憐な花で楽しませていきます。

花壇の管理は、咲き終わった草花の撤去から始まります。その後、開墾します。これは、土を掘り起こして柔らかくすると共に、土の中の害虫や病原菌の殺菌も同時に行う大事な作業です。次に、土壌改良剤を投入し堆肥を加えて植え込む土の完成です。その後、植栽します。このときの苗選びや花の配置はそれぞれの管理人さんの腕の見せ所です。それぞれの花壇に、植える人の感性が反映しています。植栽が終わると、水やりが待っています。特に、熊本の夏は日照りが強く猛暑が続くため、夏場の水やりは欠かせません。そして、除草や消毒、追肥の作業が続きます。これらの作業は年3回行われています。また、花壇の手入れと共に、周辺の道路



の清掃作業も同時に行っています。美しい花が咲き誇っている裏では、道守さん達の絶え間ない汗と愛情が注がれているのです。

美しい道づくりをテーマに丹精込めてできあがった花壇は、地域の人々にも好評です。現在、九州新幹線全線開通プロジェクトに選ばれ、「おもてなし花壇」と認定され、全県でおもてなしの心を発信しています。道守くまもと会議では、各県の道守さん達と情報も共有しながら、道守花壇がこれからも続いていくことを願っています。

## 道守大分会議

### 大分の「マイツリー活動」

全国初の試み、木と道への愛情はくくむ

別大国道は、別府湾に沿って別府市と大分市を結ぶ、大分県を代表する風光明媚な道路です。別大国道マイツリー活動とは、別大国道沿線の樹木に氏名などのネームプレートと「マイツリー」として樹木をお世話するボランティア活動のことで、道守大分会議が平成16年に、全国初の取り組みとして始めました。

マイツリー会員は一般公募により募集し、平成16年9月に50本、平成20年



いを行います。木への愛情とともに、道路を大切に育まれる、大切なひとときです。

3月に25本の植樹（ホルトノキ、シマネトリコ）を行いました。  
平成20年のマイツリー募集時には、募集25組のところに180組の応募があり、地域の皆様のマイツリーへの関心の高さがうかがわれます。  
マイツリーは、個人や家族やグループ単位で参加ができるため、ネームプレートには、愛称やグループ名など、さまざまな名前が並んでいます。  
国土交通省は道守大分会議とボランティア・サポート・プログラム協定を締結し、マイツリー活動エリアを示すサインボードの設置や、樹木に設置するネームプレートについて支援を行っています。  
毎年一回、「別大国道一斉清掃」として、マイツリー会員をはじめとする大分の道守会員と、大分河川国道事務所・佐伯河川国道事務所の職員で、別大国道の清掃活動を行っています。マイツリー会員は、自分の木の成長を確かめながら、笑顔で、一生懸命ゴミ拾いを行います。

# 道守長崎会議

## 花苗代、活動費にスポンサー

### 道守長崎の社会実験

道路を美しくきれいにするボランティアの方々の悩みは、花苗代やボランティア保険代などの活動費をどうするかということです。

道守長崎会議ではボランティア活動が必要となる活動費を捻出するため、道路植栽帯に企業名を記載したサインボードを設置する代わりに、活動に必要となる資金を企業から支援してもらう仕組み「道路植栽帯管理システム」(図-1参照)を考案し、社会実験を



図-1

通して検証しました。社会実験では、①一般企業がどの程度社会貢献しても良いと考えているか、②同システムを市民がどう評価したか、③実際に支援して頂いたスポンサー企業は同システムをどう評価したか、④スポンサー企業名を道路に標示する場合の法的課題などについて検証しました。

#### 一般企業の意識調査

長崎県下の企業(N=243社)への意識調査結果によると、同システムへの評価は非常に高く(図-2)、事業への寄付に対する意向に関しては、約6割の企業が寄付しても良いと回答(図-3)です。また、寄付金の支払い意欲の平均は8,000円程度であり、年商が大きくなるにつれ、支払い意欲も増加することが分かりました。また、今回の実験ではアサヒビール株式会社から10万円の支援をして頂

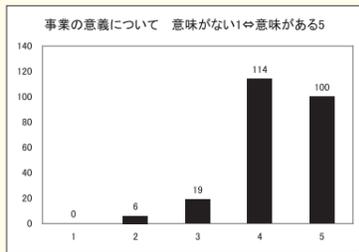


図-2

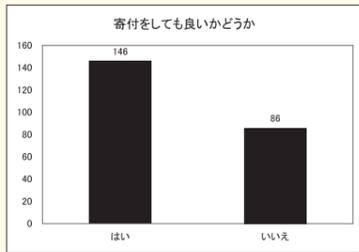


図-3

きました。市民(N=224人)のシステムへの意識調査結果では、システムの評価は高く、サインボードに掲示された企業に対する評価も高いことが分りました。さらに、サインボードに掲示された企業について、今後の商品選択に影響するとの回答が多いことも特徴(図-4)でした。

#### 市民の意識調査

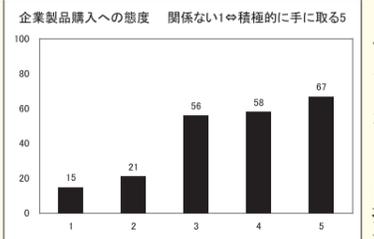


図-4

今回の社会実験では前述のとおり、市民や一般企業からの評価を検証したほか、実際に支援して頂いたスポンサー企業からのシステムに対する評価を検証、スポンサー広告を道路へ設置する際の課題などを整理しました。スポンサー企業からは同システムに対し高い評価を頂きましたが、法的課題については、法的課題が残る結果となりました。

しかし、今回の実験で何よりも大きな成果は、この仕組みが出来た環境への道筋ができたことだと思います。NPO法人道守長崎理事長 阿野史子

# 道守さきみや会議

(仮称) 橋通フラワーサポートシステムは、宮崎のメインストリートである橋通りにおいて、花壇内にサポート企業名入りのプレートを設置し、企業からのサポートにより、道路の植栽活動の費用の充たを行うというものです。

左の写真は、「みやざきフラワーロード・ネットワーク」が、年2回実施する橋通りの植栽活動(まちなかフラワーパーク事業)の自主財源確保の可能性を探るため、試行されたものです。

また、平成23年1月には、宮崎市内の関係行政機関による宮崎市地域活性化広告物連絡協議会が設立され、当システムの取扱について協議する行政側の枠組みもできました。

今秋の植栽活動では、この試行結果を土台とし、関係行政機関との調整を経た上で、本システムを正式運用していく予定です。道守活動との連携のあり方や花壇の維持管理のあり方など、整理すべきことは残っていますが、この取り組みが、単なる資金確保の手段だけではなく、企業のまちづくりへの参画を促すなど、多様な主体がまちづくりに参画する契機となり、ひいては道路環境の向上と地域全体の活性化に繋がるものと考えています。



# わたしの好きな道

潮風うけて、開聞岳と桜島を一望に

石段を登って、鹿屋市「荒平天神」

鹿児島県大隅半島の鹿屋市、鹿児島(錦江)湾沿いに国道220号から県道68号へ車で走っていくと、港町と崖や砂浜などが交互に続く風景の合間で、道路の下の方には朱色の鳥居が、眼に飛び込んできます。鳥居の先、海岸線より少し突き出した砂浜から伸びたところは小さな島になっており、大きな岩で出来た島の上には緑が高く茂っています。

鹿屋市天神町の荒平天神。石段を登った奥の社殿に学問の神様、菅原道真公を祀っており、夏には子供達連れれてよく海水浴や貝殻拾いに行ったものでした。対岸左側に、薩摩富士と呼ばれる開聞岳を、右側には桜島を眺めることができ、加えて磯の岩肌と穏やかな波の音が心を和ませてくれます。仕事を終えてからでも、対岸へ沈む夕日のひと時を楽しむことが出来るすばらしいスポットです。景色と波音の中に身を置き、潮風を受けながら時が経つのを忘れ、ふと我に返る瞬間があります。そんな荒平天神は、私の昔からのお気に入りです。街や、道路が変わらなくてもここだけは変わらないでいて欲しいそんな場所の一つです。



プロフィール  
肥田眞八郎  
鹿児島県鹿屋市在住。三州設備株式会社取締役。道守かごしま会議おすすめ分科会会長。バイパスばら通り220代表世話人。



の取組みを実施されました。また、野焼きを行っている団体を集め「野焼き学習会」や「ボランティア研修会」を開催し、地域の伝統文化である野焼きを継続することで、やまなみハイウェイ開通時の美しい景観を守る取り組みを行っていることが評価されました。

**■日本風景街道大学の開学**  
**日南海岸きらめきライン**  
 良好なパートナーシップによる日本風景街道の推進を目指し、多様な担い手が共に学ぶ場として、全国の風景街道に関する有識者、専門家を講師陣に迎え、宮崎大学を会場として、平成22年10月29日と30日の2日間にわたって日本風景街道大学を開学しました。

県内はもとより東京、福岡から参加頂いた延べ185名の聴講者の意識啓発・高揚が図られ、パートナーシップの人材育成、底上げにつながることも、今後の美しい景観の形成や地域の魅力発信に大きく寄与されたことが評価されました。

平成23年1月26日に開催された平成22年度第2回九州風景街道推進会議基本問題小委員会で「日本風景街道九州ルート 年間優秀活動表彰」の創設と平成22年度取組の審議が行われました。

選定にあたっては、①地域の魅力を発掘、維持、発展させる取組、②他地域の人々へ魅力を提供する内容となっている取組、③今後も継続していくことが確実視できる取組、④他地域の人々の来訪心をそそる取組、⑤他のルートへの先進事例となる取組等を評価項目とした「日本風景街道九州ルート 年間優秀活動表彰要領」を定め、平成22年度表彰取組の各ルートから提出頂いた代表取り組みは、いずれもルートの特徴を活かし地域の魅力を引き出すよう第1回となる平成22年度の年間優秀活動表彰には、『北九州おもてなしの ゆっくりかいどう』、『九州おもてなしの ゆっくりかいどう』、『九州横断の道 やまなみハイウェイ』、『日南海岸きらめきライン』の4つのルートが選定されました。

# 九州風景街道・年間優秀活動賞

## 「特徴生かし成果」——4ルートが初受賞

### ■街道ウォーク 北九州おもてなしの ゆっくりかいどう

街道ウォークやまち歩きを平成20年度から毎年開催し、北九州市内をはじめ県外からも参加を集めている。九州新幹線が全線開業した22年度は、遠方からの参加者をターゲット

トに、ウォーキングイベントとして知名度の高い「JRWウォーキング」と共催。さらにコース上で「風景街道パネル展」を開催することで、前回の2倍となる参加者1,260人による街道ウォークを長崎街道をメインルートとして実施、風景街道の認知度向上とまちのにぎわい創出に貢献したことが評価されました。

### ■野焼きで草原景観維持

九州横断の道 阿蘇くまもと路  
 九州横断の道 やまなみハイウェイ  
 九州横断の道 阿蘇くまもと路及びやまなみハイウェイの両ルート沿線の美しい草原景観を守り続けるため、人手不足により野焼きが実施されなくなった未利用地で野焼き拡大



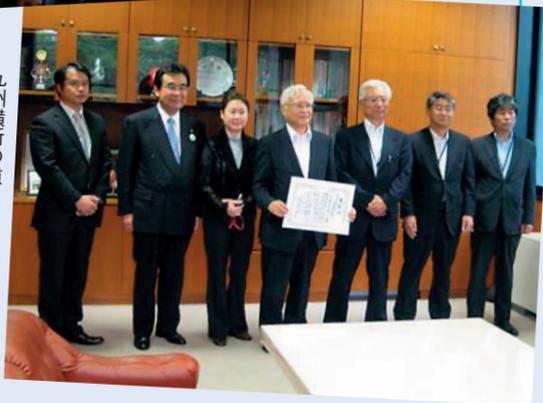
### 表彰式

表彰式の授与式は、受賞されたルートが活動の主体としている地元市町村の庁舎において、九州風景街道推進会議委員が現地へ赴き授与した。6月3日に「日南海岸きらめきライン」(於：日南市役所)、6月16日に「九州横断の道やまなみハイウェイ」(於：阿蘇市役所)の表彰式を日南市長、阿蘇市長にご出席を頂くなか執行を行い、九州風景街道推進会議明石会長からの表彰状を玉川委員と樗木委員からルート代表者に授与され

ました。

また、表彰式終了後は、それぞれのルートの取り組み状況の説明や抱えている問題についてご紹介して頂きながら、意見交換会を行いました。

また、「北九州おもてなしの ゆっくりかいどう」は7月20日(於：北九州市役所)に、「九州横断の道 やまなみハイウェイ」も7月26日(於：九重町役場)に、表彰式を行いました。



九州横断の道 やまなみハイウェイ (熊本)

# 佐賀にいらっしやいませ!

## 見所

●シュガーロード

## 砂糖の道

江戸時代、海外との唯一の窓口であった長崎に通じる「長崎街道」では、さまざまな人や情報が行き交いました。スペイン・ポルトガル・中国から渡ってきた「砂糖」や「南蛮菓子」も、この街道を通して全国に広まりました。特に佐賀は13の宿場があると同時に、佐賀鍋島藩が長崎の警固役を務めていたため、当時貴重だった砂糖が潤沢に手に入ったそうです。こうして佐賀に、名物菓子がたくさん生まれたのです。

現代、この長崎街道を「シュガーロード」と命名しています。



●佐賀の恵比須さん

## その数 日本一

恵比須とは、皆さんご存知のとおり、七福神の一人です。七福神では、唯一日本生まれの神様だそうです。はじめは漁業の神様だったようですが、現在は商売の神様として親しまれています。

佐賀市は、日本一、恵比須像が多い(その数775体!)と、その数が多いところでもあります。そして、まちの人々も恵比須さんを身近に感じています。

その一部分ですが、2日目の現地体験学習会で佐賀の恵比須さんをご紹介します。



通称:「えべっさん」

## イベント

●バルーンフェスタ



佐賀県佐賀市嘉瀬川河川敷をメイン会場に行われるアジア最大級を誇る熱気球国際的なフェスティバル(競技大会)です。

11月2日(水)から6日(日)までの予定で開催され、11月3日(木・祝)は大会2日目になります。競技は早朝7:00~9:00及び夕方15:00~17:00の2回、行われます。

(※天候により競技が中止になることがあります。)詳細は公式ホームページ「<http://www.sibf.jp/>」をご覧ください。

2日目の現地体験学習会でご案内(行きのみ)します。



●唐津くんち



「唐津くんち」は、佐賀県唐津市にある唐津神社の秋季例大祭です。毎年11月の2~4日の3日間にわたって開催され、「エンヤ、エンヤ」のかけ声で曳山(やま)が通りを駆け抜ける勇壮なお祭りです。

特に11月3日(木・祝)は唐津くんちの最大の見どころとして、県内外から大勢の見物客が訪れます。午前9時30分を回ると、神輿を中心として前後に曳山が従い、西の浜明神台(お旅所)までの巡幸が始まります。ヤマは一番の刀町・赤獅子から十四番の江川町・七宝丸まで、制作年代順に並んで、旧城下町をまわります。正午からのお旅所への曳き込み、曳き出しが最大の見せ場です。



# みちづくし in 佐賀 2011

未来をひらく つながりの道

## 道守九州会議交流会 「みちづくし in 佐賀 2011」開催

11月2日、3日の2日間、佐賀市のアバンセなどを会場に、道守九州会議交流会「みちづくし in 佐賀 2011」を開催します。道守九州会議交流会は、2004年の熊本市での初開催から今年で8回目となります。九州各地で「道」をテーマにした活動されている個人、ボランティア団体、NPO、企業、行政関係者などが一同に集い、語り、考えます。

今回、1日目は「未来をひらく つながりの道」をテーマにパネル・フロアディスカッションを始めとしたプログラムを予定しています。また、2日目は現地体験学習会を2コース準備し、佐賀市内をご案内したいと思います。

参加者募集などの詳細については随時、道守ホームページなどでお知らせしていきます。多くの道守会員の方々のご参加をお待ちしています。

主催:みちづくし in 佐賀 2011 実行委員会

### 11月2日(水)

交流会(アバンセ 1階ホール)

13:30~17:15(受付 12:30~13:30)

- オープニング ●基調講演・対談
- 「道」の絵コンテスト表彰式
- パネル・フロアディスカッション

交流集会(ホテル「グランデはがくれ」)

17:30~20:00

### 11月3日(木・祝)

現地体験学習会(佐賀市内)

コース① 集合 9:30 解散予定 12:00

「シュガーロードとえべっさん」

コース② 集合 6:00(現地自由解散)

「嘉瀬フラワーロードとバルーンフェスタ」

※プログラムは予定であり、今後、変更する可能性がありますので、ご了承ください。



### 実行委員会開催 ~みちづくしに向け、準備中です~

開催に向けて、実行委員会(第1回・6月1日 第2回・7月12日 第3回・8月9日)が佐賀市内で行われました。「佐賀」らしさを出せるようにプログラムなどの議論を進めています。

**お願い** 当日は、佐賀市内のイベント(バルーンフェスタ)と日程が重なっているため、宿泊が必要な方は早めに手配をお願いします。



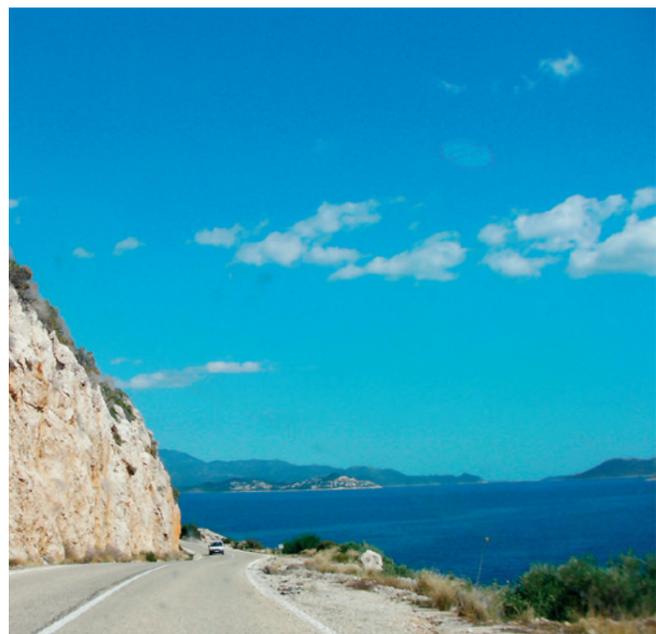
実行委員会の様子



## トルコ 街の道は交流の場

トルコ人の日本人に対する尊敬のまなざしは熱いものを感じます。これには1890年に和歌山沖で沈没したトルコ海軍軍艦「エルトゥールル号」の乗組員救助の歴史に始まり、両国が友好を深めてきたことに由来します。1988年にはボスポラス海峡を結ぶボスポラス第二大橋が日本企業と日本の資金援助により完成し、現在は同じく海峡を結ぶ鉄道トンネルを日本の企業が建設中です。トルコの交通事情ですが、鉄道があまり発達していないので主役はクルマです。高速道路の延長は広い国土に対して短いものの、各都市間の多くは4車線の幹線道路で結ばれており、山あり谷ありの日本の国土とは違って、立派な道路で結ばれています。地中海沿いやエーゲ海沿いのドライブコースは南仏のように美しく、ヨーロッパから夏のバカンスに大勢の人が訪れる大観光地になっています。まさにトルコ版風景街道といったところでしょうか。

都市内の道路は街にあってだいぶ雰囲気は異なります。イスタンブールやアンカラのような大都市、地中海やエーゲ海沿岸部の都市はヨーロッパの影響を強く受けており、街中をトラムやミニバスが走り、市の中心部は市場や行政機関などが集まっていますが、近年



## エーゲ海沿いの「風景街道」

は大型のショッピングセンターが郊外に増えるなど国民の生活が豊かになり、車中心の社会へと変貌を遂げるに従い、日本と同じような様子がみられています。一方、東側の経済発展が遅れている街では、コンパクトな街並みで大型のショッピングセンターも少なく、せまい街の中心部にある市場に買い物の人々が集まり活況を呈しています。トルコ人はとにかくおしゃべりが好きで、街の道路は都市も地方も格好の交流

の場となっており、路上でものを売る人、チャイと呼ばれるお茶を飲みながら談笑する人など、道路は生活にとっても身近な存在なようです。日本人を見かけると人なつっこい子供達が「ジャポン、ジャポン!」と寄ってきてすぐに人の輪が広がります。もちろん、日本の方が良い点もいっぱいありますがどこか一昔前の日本のような懐かしい雰囲気を感じさせる国がトルコです。

●プロフィール  
九州地方整備局道路部道路計画第一課  
廣瀬健二郎  
2010年3月まで在トルコ日本国大使館に勤務



昨年3月までトルコ共和国の首都、アンカラに滞在していました。日本からみるとトルコは遠い国。トルコ共和国はアジアの西端にあり、三方をエーゲ海、黒海、地中海に囲まれボスポラス海峡を挟んで一部はヨーロッパ側にも国土を持つ共和国です。世界有数の親日国。

## 道守 人物伝

### 健康でいきがいづくりを目指して

中多久ボランティア連絡協議会 会長 松永正義さん(92歳)  
戦後復旧を支えた石炭産業に勤めるも、エネルギー改革に依り昭和四十三年一月の閉山を機に、若年層は再就職求め全国へ就職、定年間近な私たちは、現地にとどまり、残った同僚と共に地域作りにスタートしました。

元気なお母さん達の強い要望で家に引きこもりのお父さん達を元気にしようとして昭和60年7月に「中多久ボランティア連絡協議会」を発足、団地近くの公園の草刈り、除草作業を始めに、老人世帯の家の草刈り清掃を始めました。平成十四年にはボランティアサポートに参加し、現在は北部公園維持管理、無人駅構内外維持管理、団地公民館周辺、子供遊園地等の除草作業、記念碑維持管理、下校時ゴミ拾い兼ねての防犯パトロール、違反広告撤去、多久インター花壇花植え、多久市内清掃等幅広く活動しています。設立時は六十名だった会員も今では二十名まで減りましたが、ボランティア活動の実践を通して、明るく住みよい豊かな地域社会の実現をめざしてふれあいの街づくりを理念に今後も続けていきたいとおもっています。



活動する松永さん

## 道守たちのトピックス〈横顔〉

### 新事務局長 尾木幾子氏



尾木さんは「NPOはかた夢松原の会」で活動を続けられ、また国土交通省職員として九州地方整備局に勤めてこられました。本年3月に福岡国道事務所副所長を最後に退職されたのを機会に、去る7月7日の運営会議において榎谷事務局長の後任として就任いただきました。

元来、外に出て、人とのつながりを大切に育てられるお人柄で、本務の公務はテキパキとこなしつつ、私時間においては、所属NPOでの活動にとどまらず、多方面の市民活動家の皆様等との交流などに奔走されています。

各地の道守世話人の皆様にも旧知の方も多く、各県会議の主要催し等にも積極的に参加いただけるものと、今後のご活躍を楽しみにしています。また前事務局長の榎谷様は日本風景街道九州ネットワークの事務局長を主務としつつ、道守九州会議事務局も引き続きサポートしていただくこととしています。

### 九州地方整備局 (新)道路部長 山内正彦氏



山内部長は、(前)野口部長の後任として、本年4月より国土交通本省から現職に就任。学生時代はハンドボール選手や合唱団員として活躍された爽快かつ繊細な方です。愛知県の濃尾平野で生まれ、そこのおいしいお米で体格良く育ちました。ボランティア活動についても関東地方整備局道路企画官の時に「風景街道」に携わって以来二度目の事。九州の道守さん達の熱い思いに感動され、今後ともより良い関係を目指して頑張ることです。

### 九州地方整備局 (新)道路調査官 富山英範氏



富山調査官は、本年4月より大分県から就任。毎日自転車か徒歩で通勤しています。米国での勤務経験もあり国際派の調査官ですが、富山県出身で食べ物はお寿司が大好きな日本食通です。平成15年には九州地方整備局道路計画第一課長として、道守九州会議の設立に尽力いただきました。ボランティアとの今後の協働・連携のあり方について積極的に取り組みたいと意欲的です。

～道守を支援して頂く賛助会員の皆様（団体・企業）～

順不同

九州国道協会	(社)日本道路建設業協会 九州支部	(社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部
(社)九州建設弘済会	福岡県道路協会	福岡市道路利用者会議
(社)福岡県建設業協会	建設サービス(株)	佐賀県道路愛護協会
(社)佐賀県建設業協会	長崎県道路協会	(社)長崎県建設業協会
熊本県道路利用者会議	(社)熊本県建設業協会	大分県土木建築協会
(社)大分県建設業協会	長幸建設(株)	宮崎県道路利用者協議会
(社)宮崎県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	(社)鹿児島県建設業協会
みちを考える会	NTTインフラネット(株)	八千代エンジニアリング(株)九州支店
いであ(株) 九州支店	烏城塗装工業(株)	(株)荻島組
(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	川田工業(株) 九州営業所	(株)九州ソイルベスト
九州地区道路利用者会議	(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	(株)ケー・シー・エス 九州支社
(株)建設環境研究所 九州支社	(株)建設技術研究所 九州支社	(株)建設技術センター
(社)建設コンサルタツ協会 九州支部	(株)構造技術センター 福岡支社	新構造技術(株) 九州支店
新日本技研(株) 福岡支店	(株)総合技術コンサルト 九州支店	瀧上工業(株) 福岡営業所
(株)長大 福岡支社	(株)東亜コンサルタント	東急建設(株) 九州支店
(株)東京建設コンサルト 九州支店	(株)都市開発コンサルタント	(株)名村造船所 福岡営業所
西日本技術開発(株)	西日本新聞エリアセンター連合会	日鉄鉱コンサルタント(株) 九州支店
日本工営(株) 福岡支店	範多機械(株) 福岡営業所	(株)福山コンサルタント
(株)ぶぜん街づくり会社	復建調査設計(株) 福岡支社	前田建設工業(株)
(株)宮地鐵工所 福岡営業所	そうじの会 (多久の未来を創る会)	農事組合法人そよかぜ館
葉隠会道守部会	扇精光(株)	(株)西海建設
宅島建設(株)	川田建設工業(株)	(株)九州開発エンジニアリング
(株)水野建設コンサルタント	(株)ヤマックス	(株)高山組
九建設(株)	九州建設コンサルタント(株)	新成建設(株)
(株)センコー企画	(株)玉の湯	(株)地域科学研究所
(株)友岡組	西日本コンサルタント(株)	(財)日本造園修景協会 大分県支部
(株)野村建設	太陽技術コンサルタント(株)	(株)日高時計本店
宮崎空港ビル(株)	(株)宮崎産業開発	朝日開発コンサルタツ(株)
(株)アジア技術コンサルタツ	ウエノ・コンサルタント(株)	鹿児島土木設計(株)
(株)建設技術コンサルタツ	大福コンサルタント(株)	南生建設(株)
(株)みともコンサルタント	(株)新日本技術コンサルタント	三州技術コンサルタント(株)
大日本コンサルタント(株)大阪支社		

## 道守通信 編集後記

○今回の道守通信は①東日本大震災の現地ボランティアの活動②2010年の「みちづくしin九州」③今年十一月に開かれる「みちづくしin佐賀」など特集記事が盛り沢山に掲載されました。東日本大震災では現地に九州からボランティア団体が数多く活動しています。道守活動と同様に「みんなの力」が必要な時です。道守通信としても「がんばろう日本」のメッセージを発信していきたいと思えます。

○昨年一年間、道守さん達とパートナーシップをはかりながら、行政側ではチームをつくりながら「みちづくし」を運営しました。資金のない中で出てくる知恵の数々。花の種のネームプレートや博多切り絵の手ぬぐい賞状、スライドショーなどたくさんアイデアが生まれました。チームとしてパートナーシップとして楽しんでやることも学びました。

今、被災地では、ナナメの力を大変必要としています。私たちに何か出来ることはないかテレビを目の前にして考えています。

(道守支援室)



発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」夏号  
平成23年8月19日発行

## 「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号  
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■一般社団法人 日本風景街道九州ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3丁目6番18号  
TEL.092-292-8138 FAX.092-292-8249

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail [michimori@qsr.mlit.go.jp](mailto:michimori@qsr.mlit.go.jp)